

東温市健康増進計画  
健康とうおん～いきいきプラン～（第2次）

中間評価報告書

令和2年3月

東温市

# 目 次

第1章	はじめに	1
第2章	中間評価の目的と方法	
I	中間評価の目的	2
II	中間評価の方法	2
第3章	中間評価の結果	
I	結果の概要	3
II	基本的な方向別の評価・課題	4
第4章	目標指標の整理	
I	関連計画の改訂等により見直した項目	20
II	目標を達成している項目	24
第5章	全体の評価と今後の課題・取組	26
参考資料		27
評価指標一覧		28
目標指標出典一覧		36

# 第1章 はじめに

東温市では、平成19年度策定した東温市健康増進計画「健康とうおん～いきいきプラン～」の最終評価をふまえ、平成25年度に第2次計画を策定しました。令和元年度は、本計画策定時に設定した中間評価の年になるため、計画の進捗状況から、計画最終年である令和6年度に向けた取組を検討しました。

また、本計画策定後の平成26年度に国の母子保健計画「すこやか親子21(第2次)」が策定されたため、東温市における母子保健の推進に関する取組や評価指標を検討しました。

図1 計画の期間と評価

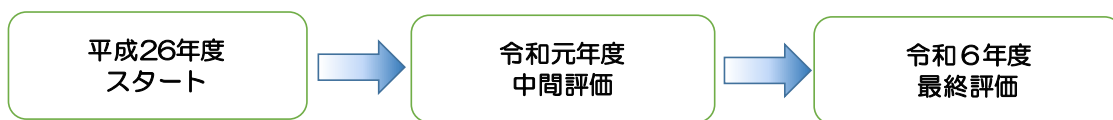
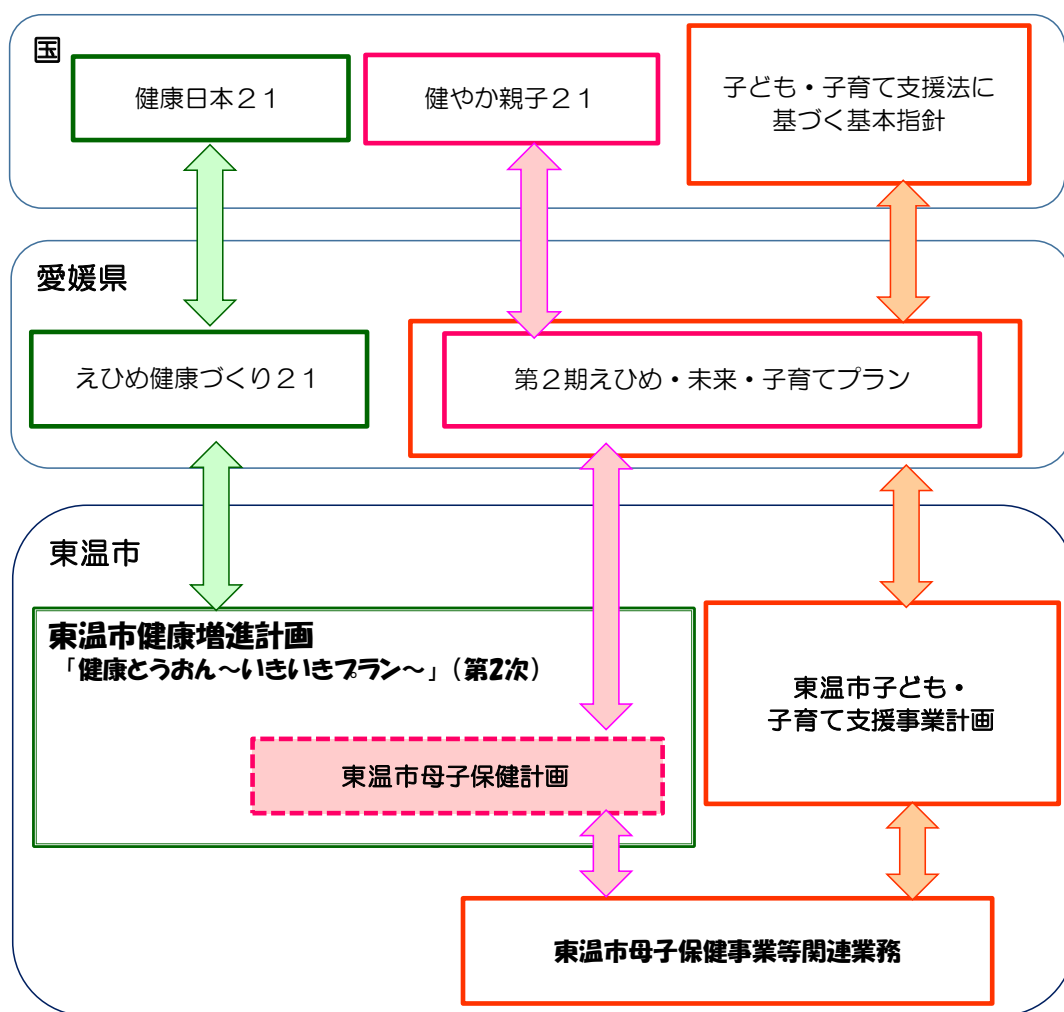


図2 健康日本21、健やか親子21と東温市健康増進計画、母子保健事業の概念図



## 第2章 中間評価の目的と方法

### I. 中間評価の目的

これまでの取組状況や達成状況を評価するとともに、市の課題や国・県の計画の中間評価、関連計画や制度改正などを鑑みて、今後の計画推進のための方向性や優先的に取り組む内容を検討するために中間評価を実施します。

現時点での目標の達成状況や関連する各種事業の実施状況を整理し、進捗状況を取りまとめます。また、目標達成に向けて実施した事業の見直しや新たな取組について整理することが中間評価の目的です。

### II. 中間評価の方法

計画策定時に分野ごとに設定している数値指標を平成 29 年度に実施したアンケート調査や各種事業実績を基に比較し、進捗状況を確認しました。数値指標が計画策定時のベースラインからどう変化しているかを下記のとおり評価しました。

◎	目標を達成している 現状値が計画策定時の目標を達成している場合
○	改善傾向 現状値が計画策定時の目標には達成していないが、ベースライン値に比べて改善されている場合
△	現状維持 計画策定時のベースライン値と現状値がほとんど変化がない場合
×	悪化している 計画策定時のベースライン値に比べて現状値が悪化している場合
※	評価困難 計画策定時と調査方法や対象が異なるため評価が困難な場合

## 第3章 中間評価の結果

### I 結果の概要

計画の目標指標 15 分野 63 項目について、達成状況を分析・評価した結果を表1、表2にまとめました。

表1では、「◎：目標を達成している」は7項目（11.1%）、「○：改善傾向」は24項目（38.1%）となっており、この2つを合わせた31項目（49.2%）で改善がみられました。一方、「△：現状維持」が12項目（19.0%）、「×：悪化している」が9項目（14.3%）でした。その他、調査方法の変更などで「※：評価困難」となったものが11項目（17.5%）あり、最終評価までに調査方法等を検討します。

表2では、「3 社会生活を営むために必要な機能の維持・向上」と「5 健康に関する生活習慣及び社会環境の改善」の2つで半数以上の項目で改善がみられました。

表1 指標ごとの評価状況

評価区分（策定時のベースラインと現状値を比較）	項目数
◎ 目標を達成している	7 (11.1%)
○ 改善傾向	24 (38.1%)
△ 現状維持	12 (19.0%)
× 悪化している	9 (14.3%)
※ 評価困難	11 (17.5%)
合 計	63 (100%)

表2 基本的な方向ごとの評価状況

5つの基本的な方向	評 価				
	◎	○	△	×	※
1 健康寿命の延伸と健康格差の縮小			1 (50.0%)		1 (50.0%)
2 生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底	1 (8.3%)	4 (33.3%)	5 (41.7%)		2 (16.7%)
3 社会生活を営むために必要な機能の維持・向上	2 (14.3%)	5 (35.7%)	3 (21.4%)	3 (21.4%)	1 (7.1%)
4 健康を支え、守るための社会環境の整備					2 (100%)
5 健康に関する生活習慣及び社会環境の改善	4 (12.1%)	15 (45.5%)	3 (9.1%)	6 (18.2%)	5 (15.2%)
合 計	7 (11.1%)	24 (38.1%)	12 (19.0%)	9 (14.3%)	11 (17.5%)

## Ⅱ 基本的な方向別の評価・課題

### 1 健康寿命の延伸と健康格差の縮小

市民がいつまでも健やかで心豊かに日常生活を送ることができるよう、生存期間ではなく、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間、いわゆる「健康寿命」を延ばすことが重要です。本計画では様々な取組と目標の達成によって実現される最終目標として位置付けています。

#### 【目標指標の達成状況】

##### ① 自分で健康と感じている人の割合

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
87.1% (20～64歳)	84.0%	△	増やす	A
60.0% (65歳以上)	73.7%	※		

※指標設定のための調査方法が異なるため65歳以上は評価できず。

#### 【課題と今後の取組】

東温市でも高齢化が進み、医療費や介護給付費の増加が懸念されています。子どもから高齢者まで、全ての市民が健康づくりや生活習慣病の発症予防、重症化予防に取り組みむことで、健康寿命の延伸を目指します。

### 2 生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底

#### (1) がん

##### 【これまでの取組】

本市の主要死因別死亡率第1位であるがんは、早期発見、早期治療により死亡率を抑えられることから、がん検診の受診率及び精密検査の受診率の向上を図り、早期発見・早期治療を目指して下記の内容に取り組みました。

- 集団検診の子宮頸がん検診を午前中に実施し、午前中で全項目の検診が受診できるようにしました。
- 集団検診で土曜日の実施日を追加しました。
- 集団検診で託児サービスを開始しました。
- 子宮頸がん、乳がんの個別検診（施設、病院）を開始しました。
- 要精密検査対象者で受診が確認できない方には、訪問等で受診勧奨を行いました。
- 国民健康保険加入者、後期高齢者医療保険加入者を対象としたドック検診を開始しました。

## 【目標指標の達成状況】

### ① 全がんのSMR

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
男性 96.9 女性 84.8	男性 97.4 女性 88.2	※	減らす	C

※算出根拠となる数値の設定年数が異なり、重複しているため評価できず

### ② がん検診受診率

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
胃がん 男性25.1% 女性29.4% 肺がん 男性27.1% 女性34.1% 大腸がん 男性33.6% 女性44.0% 子宮頸がん 女性53.7% 乳がん 女性59.6%	胃がん 男性24.3% 女性26.6% 肺がん 男性28.0% 女性32.0% 大腸がん 男性35.3% 女性43.7% 子宮頸がん 女性51.0% 乳がん 女性58.2%	△	胃、肺、大腸がん40%  子宮頸がん60% 乳がん65%	D

### ③ がん検診精密検査受診率

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
胃がん 93.4% 肺がん (対象なし) 大腸がん 79.7% 子宮頸がん 96.2% 乳がん 93.0%	胃がん 89.0% 肺がん 91.3% 大腸がん 78.0% 子宮頸がん 100% 乳がん 95.7%	△	100%を目指す	D

## 【課題と今後の取組】

東温市の死亡原因の第1位はがんです。がんによる死亡者を減らし、がんの治療によって生活の質を低下させないためには、予防に関する正しい知識の普及や早期発見、早期治療が大切です。

がんの発症を高めるリスクの中で生活習慣に関するものは、喫煙(受動喫煙を含む)、過剰飲酒、低身体活動、肥満・やせ、野菜・果物不足、塩分を多く含む食品や食塩の過剰摂取等があります。これらは、循環器疾患や糖尿病などの危険因子と重複するため他の生活習慣病対策と合わせて、生活習慣改善につながる情報提供を行います。

がん検診の重要性の啓発と合わせて、ナッジ理論などを活用した効果的な受診勧奨に取り組み、引き続き受診しやすい体制を整備していきます。また、がん検診の結果、精密検査を受診していない人には積極的な受診勧奨を行います。

日本では、2人に1人ががんになるといわれています。たとえ、がんになっても安心して暮らせる地域づくりを目指して新しい取組を検討します。

## (2) 循環器疾患

### 【これまでの取組】

循環器疾患の発症リスクを下げるためには高血圧、脂質異常症、糖尿病、喫煙の4つの危険因子の管理が基本です。健康診査の受診率向上や、診察相談で個人の健康診査結果に基づいた特定保健指導など下記の内容に取り組みました。

- 特定健康診査（集団健診）の自己負担金を無料にしました。
- リスクが重複した高血圧者に対する保健指導を実施しました。

### 【目標指標の達成状況】

#### ① 脳血管疾患・虚血性心疾患の SMR

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
脳血管疾患 男性101.3 女性92.0	脳血管疾患 男性99.6 女性87.9	※	減らす	C
虚血性心疾患 男性39.2 女性59.9	虚血性心疾患 男性53.5 女性85.1			

※算出根拠となる数値の設定年数が異なり、重複しているため評価できず

#### ② 収縮期血圧の平均値

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
男性 127.8mmHg 女性 124.1mmHg	男性 125.0mmHg 女性 121.1mmHg	○ ○	男性 123.8mmHg 女性 120.1mmHg	E

#### ③ LDLコレステロール 160mg/dl以上の者の割合

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
男性8.5% 女性11.7%	男性4.3% 女性8.1%	◎	男性7.1% 女性8.8%	E

#### ④ 特定健康診査受診率、特定保健指導実施率

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
特定健診受診率 30.9%	35.1%	○	35%	F
保健指導実施率 54.5%	52.1%	△	65%	

※第2期東温市国民健康保険特定健康診査等実施計画に準じて目標値と目標年度を設定している

### 【課題と今後の取組】

脳血管疾患や虚血性心疾患の死亡は全国に比べると低い状況ですが、脳血管疾患は介護が必要になる原因疾患の一つで、発症すると介護度が高い傾向があります。血圧や血中脂質のコントロール状況は改善していますが、発症予防や重症化予防のための啓発が必要です。また、個人の状態に合わせた保健指導を実施するためには、健康診査の受診率向上が必要となるため、受診勧奨や受診しやすい体制を整備していきます。



### (3) 糖尿病

#### 【これまでの取組】

糖尿病は、脳血管疾患や心筋梗塞等のリスクを高め、神経障害、網膜症、腎症、足病変といった合併症を併発することにより、生活の質に多大な影響を及ぼします。そのため、発症予防、重症化予防の取組みが重要です。生活習慣の改善による糖尿病有病者の増加の抑制や、継続的な糖尿病治療による良好な血糖コントロール状態の維持により、糖尿病を起因とする合併症の発症等を抑制することを目指して下記の内容に取り組みました。

○平成 29 年 3 月に策定された愛媛県糖尿病性腎症重症化予防プログラム(国保版)に沿った保健指導を開始しました。

#### 【目標指標の達成状況】

##### ① 血糖コントロール不良者の割合 (HbA1c が JDS 値 8.0% (NGSP 値 8.4%) 以上)

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
0.73%	0.75%	△	0.62%	E

##### ② 糖尿病有病者の割合

(HbA1c が JDS 値 6.1% (NGSP 値 6.5%) 以上かつ血糖服薬ありの者の割合)

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
3.8%	4.0%	△	増加を抑制	E

#### 【課題と今後の取組】

糖尿病のコントロール不良や発症者の増加は見られていないが、適切な食事や運動、健診受診などで、糖尿病の発症予防や適切な血糖コントロールについて啓発する必要があります。重症化予防は、引き続き愛媛県糖尿病性腎症重症化予防プログラムに準じて取り組んでいきます。

今後は、愛媛県糖尿病性腎症重症化予防プログラムが平成 31 年 3 月に国保・後期高齢者版に改定されたことを受けて、後期高齢者を対象にした重症化予防にも取り組めます。

#### (4) COPD（慢性閉塞性肺疾患）

##### 【これまでの取組】

COPDは、主に長期の喫煙によってもたらされる肺の炎症性疾患です。緩やかに呼吸障害が進行するため、加齢や喫煙のせいにしてなかなか自覚に至らない疾患です。しかし、禁煙による予防や薬物等による治療が可能な疾患であり、早期発見・早期治療が重要となるため、COPDに関する普及・啓発を目的に下記の内容に取り組みました。

- 健康・食育カレンダーにCOPDの記事を掲載しました。
- 愛媛医療センターが健康フォーラムで肺機能検査の体験コーナーを開設しました。

##### 【目標指標の達成状況】

###### ① COPDを知っている人の割合

現状	現状値	中間評価	目標	出典
29.9%	34.6%	○	80%	A

##### 【課題と今後の取組】

喫煙者を中心にCOPDのリスクや予防等の正しい知識について普及・啓発を進めていきます。

### 3 社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上

#### (1) こころの健康

##### 【これまでの取組】

こころの健康を保つためには、身体の健康と同様に規則正しい生活や適度な運動、バランスのとれた食事などが重要です。また、社会環境の影響を強く受けることから、多くの方がこころの病気に関する知識を深め、対応方法を理解し、自分や周りの人のために行動することが必要です。こころの健康を守るため、それぞれのライフステージに応じて関係機関と連携しながら下記の内容に取り組みました。

- 赤ちゃん訪問時にエジンバラ産後うつ病自己質問票を使ったアンケートを実施し、その結果に基づいて支援しました。
- 自殺対策基本法に基づく東温市自殺対策計画を策定しました。
- 「ぐっすり眠れてる？」携帯サイトに加え、パソコンサイトを作成し、こころの健康に関する正しい知識の普及体制を強化しました。
- ゲートキーパー養成講座を開催し、悩みを抱えている人への「気づき」や相談窓口につなぐ役割を担う人材育成を行いました。

## 【目標指標の達成状況】

### ① 自殺のSMR

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
男性 121.19 女性 146.52	男性 109.3 女性 116.6	○	減らす	C

### ② ストレスを感じることがよくある人の割合

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
20～64歳 27.8% 中学1年生 22.3%	20～64歳 22.0% 中学1年生 17.3%	◎ ◎	25% 20%	A B

### ③ ストレスを解消する手段（方法）を持っている人の割合

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
77.9%	78.9%	△	増やす	A

### ④ 身近に相談できる人がいる割合

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
20～64歳 男性83.8% 女性95.4%	20～64歳 男性85.7% 女性90.9%	△	100%を目指す	A
中学1年生 男子81.1% 女子89.2%	中学1年生 男子83.8% 女子87.6%	△		B

## 【課題と今後の取組】

自殺のSMRやストレスを感じる人の割合は改善していますが、ストレス解消の手段がある人の割合や身近に相談できる人がいる割合は大きな変化がみられません。

平成31年3月に策定した東温市自殺対策計画の取組と整合性をはかりながら推進していきます。また、令和2年4月に開設する子育て世代包括支援センターでは、妊婦へのアンケートや産婦のエジンバラ産後うつ病自己質問票の結果に基づいて個別に切れ目ない支援を行います。

## (2) こどもの健康

### 【これまでの取組】

生涯を通じて健康で生活するためには、妊娠期からの健康が大切です。子どもの健康や生活習慣は、親の生活の影響を大きく受けるため、家族ぐるみで適切な生活習慣を身につけることが生涯を通じて健康で過ごすために重要です。また、地域で支え合い、安心して子育てできる環境づくりも必要です。

平成27年3月に健やか親子21（第2次）が策定され、令和元年度には中間評価が実施されました。本計画は健やか親子21の内容もふまえて推進するため、健やか親

子 21 の方向性や指標を参考に市の取組を整理しました。

- 母子健康手帳発行時にアンケート調査を実施し、個別の支援を始めました。
- 健やか親子 21 の指標に関するアンケート調査を開始しました。
- 生活リズム（睡眠）に関して協議し、幼児（3 歳児）の就寝時刻 9 時までの目標を設定しました。
- 食事について協議し、朝食に主食、主菜、副菜をそろえることを目標として、市が作成した幼児用食事バランスガイドを使った栄養指導を開始しました。

### 【目標指標の達成状況】

#### ① 朝食を毎日食べる子どもの割合（毎日必ず食べる）

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
小学校5年生 82.2% 中学校2年生 83.5%	小学校5年生 83.0% 中学校2年生 86.1%	○	100%を目指す	B

※第 2 期東温市食育推進計画に準じてして目標値と目標年度を設定している

#### ② 外で体を動かして遊んでいる子どもの割合

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
小学生4年生 男子65.5% 女子39.0%	小学生4年生 男子62.2% 女子52.0%	○	増やす	B

#### ③ 全出生数中の低出生体重児の割合

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
7.8%	9.0%	×	減らす	H

#### ④ 肥満傾向にある子どもの割合の減少

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
小学校4年生 男子3.1% 女子4.5% 中学校1年生 男子4.0% 女子5.8%	小学校4年生 男子9.0% 女子6.6% 中学校1年生 男子6.0% 女子7.4%	×	減らす	I

### 【課題と今後の取組】

食事、運動、睡眠を軸としたよりよい生活習慣を身につけてもらうために、家庭への啓発や支援に引き続き取り組みます。また、令和 2 年 4 月に子育て世代包括支援センターを開設して、母親が安心して育児に取り組めるよう妊娠期から切れ目なく支援していきます。

### (3) 高齢者の健康

#### 【これまでの取組】

本市の高齢化率は平成31年4月に30%を超え、年々高齢化が進んでいます。健康寿命の延伸のためには、高齢者の健康増進や社会参加が一層重要となります。

市民を対象としてロコモティブシンドロームなどをテーマに健康教育を行いました。また、認知症の予防や対応に関する周知・啓発も進めてきました。

令和元年には健康保険法の一部改正があり、高齢者の保健事業と介護予防事業を一体的に実施することが求められ、令和元年10月に高齢者の保健事業ガイドラインが改定されました。これらのことを受けて、高齢者の保健事業の実施に向け検討しました。

○ロコモティブシンドロームをテーマに地区健康講座、いきいき健康講座を開催しました。

○高齢者の低栄養予防について食生活改善推進員に研修会を実施し、低栄養をテーマに推進員による食生活改善地区講習会を開催しました。

○フレイル予防をテーマにとうおん健康づくりの会研修会、衛生委員研修会、いきいき健康講座を開催しました。

○認知症の予防や認知症の方との関わり方について地区健康講座やこころの健康講座、衛生委員会、いきいき健康講座を開催しました。

○後期高齢者のうち、糖尿病性腎症重症化予防の対象者にアセスメントを行い、事業実施に向けて検討を行いました。

○地域の自主運動グループに対して、低栄養予防のミニ講座を行いました。

#### 【目標指標の達成状況】

##### ① 要介護認定者数（1号被保険者）

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
21.5%	20.9%	○	増加を抑制	J

##### ② ロコモティブシンドロームを知っている人の割合

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
22.5%	27.9%	○	80%	A

##### ③ 低栄養傾向（BMI20以下）の高齢者の割合

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
男性13.7% 女性21.7%	男性13.1% 女性24.5%	×	増加を抑制	E

##### ④ 何らかの地域活動に参加している高齢者の割合

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
男性71.5% 女性69.7%	男性67.5% 女性64.8%	※	80%	A

※指標設定のための調査方法が異なるため評価できず

### 【課題と今後の取組】

高齢者の健康課題であるフレイルや認知症の予防に関するポピュレーションアプローチを実施してきました。

後期高齢者の保健事業は、愛媛県後期高齢者医療広域連合が実施主体として実施していましたが、今後は市がこれまで取り組んでいる各種保健事業や介護予防事業と一体的に実施し、高齢者の多様な課題に対応することが求められています。

また、高齢者の保健事業を実施するために、KDB システムを使った、健康課題の整理・分析をし、その結果に基づいて、生活習慣病の重症化を予防するための個別のアプローチや地域の通いの場を活用したポピュレーションアプローチなどの事業の組み立て等を検討する必要があります。併せて、本計画の指標も見直しを検討します。

## 4 健康を支え、守るための社会環境の整備

### 【これまでの取組】

健康づくりは、これまでは個人や家庭内での取組が中心と考えられてきましたが、地域社会との交流によって、より充実した健康づくりを実践することが可能となります。地区組織である上林健康会議、健康づくりの住民自主組織であるとうおん健康づくりの会、食を通じた健康づくり活動を実践する東温市食生活改善推進協議会の活動を支援することで、地域の健康づくりを推進しています。

### 【目標指標の達成状況】

#### ① 地域でお互いに助け合っていると思う人の割合（計画策定後調査）

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
(参考値) 58.8%	63.4%	※	増やす	A

※指標設定のための調査方法が違うため評価できず

#### ② 健康づくりを目的とした活動に主体的に関わっている人の割合（計画策定後調査）

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
(参考値) 19.6%	8.6%	※	増やす	A

※指標設定のための調査方法が違うため評価できず

### 【課題と今後の取組】

地域の自主組織が健康づくりなどの目的に沿った活動を自主的に進めていくためには、引き続き行政が支援していく必要があります。

高齢者の保健事業で地域の通いの場に医療専門職が関与し、保健事業を実施する中で地域のつながりの中で健康づくりに取り組む体制が構築できるよう努めます。

## 5 栄養・食生活、身体活動・運動、休養、飲酒、喫煙及び歯・口腔の健康に関する生活習慣及び社会環境の改善

### (1) 栄養・食生活

#### 【これまでの取組】

食事は子どもたちが健やかに成長し、人々が健康で幸福な生活を送るために欠かせないものです。また、がんや循環器疾患、糖尿病などの生活習慣病予防にも深く関わっています。そのため、食事のバランスに気をつけ、適正な量を食べる人の増加を目指し、バランスのとれた食事や野菜の摂取、減塩をテーマに食生活改善推進員の診察相談での展示や各種健康講座を実施しました。また、ライフステージごとの食事バランスガイドを作成し普及・啓発に活用しています。

また、平成31年3月に策定した第3次東温市食育推進計画では、健やかな「身体」を育む食育として本計画と連動して推進する体制を整えています。

○高齢者と青年、中・壮年期向け食事バランスガイドを作成し、バランスのとれた食事を普及するために活用しました。

○幼児向け食事バランスガイド作成し、3歳児健診の栄養相談で活用しました。

○健康・食育カレンダーに栄養成分表示に関する記事を掲載し、食品表示について普及・啓発を行いました。

#### 【目標指標の達成状況】

##### ① バランスのとれた食事をしている人の割合

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
男性47.1%	男性65.8%	◎	男性60%	A
女性73.4%	女性68.3%	×	女性80%	

※第2期東温市食育推進計画に準じてして目標値と目標年度を設定している

##### ② 減塩を心がけている人の割合

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
男性51.3%	男性57.6%	○	70%	A
女性70.2%	女性72.1%			

##### ③ 緑黄色野菜を毎日食べる人の割合

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
男性42.8%	男性54.9%	◎	男性50%	A
女性56.2%	女性64.2%		女性60%	

※第2期東温市食育推進計画に準じてして目標値と目標年度を設定している

##### ④ 外食や食品を購入する時に食品重量や栄養成分を参考にする人の割合

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
男性20.9%	男性24.9%	○	40%	A
女性37.0%	女性39.5%			

## ⑤ 食事を家族と食べる子どもの割合

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
朝食 小学生4年生 96.5% 中学校1年生 79.6%	朝食 小学生4年生 94.7% 中学校1年生 81.6%	△	100%を目指す	B
夕食 小学生4年生 98.6% 中学校1年生 95.1%	夕食 小学生4年生 99.6% 中学校1年生 96.0%	○		

※第2期東温市食育推進計画に準じてして目標値と目標年度を設定している

## ⑥ 適正体重を維持している人の割合（肥満・やせの減少）

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
30歳～60歳代の男性の 肥満者の割合 27.8%	30歳～60歳代の男性の 肥満者の割合 33.3%	×	25%	E
40歳～60歳代の女性の 肥満者の割合 18.6%	40歳～60歳代の女性の 肥満者の割合 20.3%	×	15%	
30歳代女性のやせの 者の割合 22.0%	30歳代女性のやせの 者の割合 20.8%	○	20%	

### 【課題と今後の取組】

減塩や野菜の摂取、栄養成分表示の確認など、健康づくりのための意識の高まりは感じられますが、女性でバランスのとれた食事をしている人の割合が減少しており、肥満の人の割合が増加しているなど行動の変容や成果には至っていません。

どの年代においても、主食、主菜、副菜をそろえたバランスのとれた食事は健康づくりの基本となるため、引き続きバランスのとれた食事について普及・啓発していきます。また、中・壮年期の肥満と高齢者の低栄養によるやせなど、ライフステージによって、適正体重の考え方が変わるため、対象となる個人や集団に合わせた情報提供に努めます。

### (2) 身体活動・運動

#### 【これまでの取組】

身体活動・運動は、循環器疾患やがんなどの生活習慣病の発症リスクに関連することや、高齢者の認知機能や運動器機能などの社会生活機能との関係が明らかになっており、健康寿命の延伸や生活習慣病予防、社会生活機能を維持・向上する上で重要です。

運動指導事業や運動をテーマにした地区健康教室に加えて、ウォーキングマップの作成やオリジナル体操の作成に取り組みました。

○東温市オリジナル体操（TOON サーキットトレーニング）を作成し、DVD やリーフレットを使って、普及啓発に努めています。



〇とうおん健康づくりの会と協同でウォーキングマップを作成しました。平成 27 年度には都市整備課の東温市おでかけ交通利用促進活動助成事業を活用してウォーキングマップを掲載したパンフレットを作成しました。

### 【目標指標の達成状況】

#### ① 歩行または同等の身体活動を 1 日 1 時間以上実施している人の割合

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
40～64歳 男性62.4% 女性64.6%	40～64歳 男性66.8% 女性60.1%	△	40～64歳 男性73% 女性75%	K

#### ② 散歩や軽い体操を定期的に行っている人の割合

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
65歳以上 男性55.5% 女性55.1%	65歳以上 男性50.0% 女性68.3%	※	65歳以上 男性65% 女性65%	A

※指標設定のための調査方法が異なるため評価できず

#### ③ 運動習慣者の割合（1 日 30 分以上の軽く汗をかく運動を週 2 日以上、1 年以上継続している）

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
40～64歳 男性34.4% 女性35.0%	40～64歳 男性41.9% 女性34.5%	○	40～64歳 男性44% 女性45%	K
65歳以上 男性58.9% 女性48.2%	65歳以上 男性58.1% 女性52.0%	○	65歳以上 男性69% 女性58%	

### 【課題と今後の取組】

運動習慣者の割合も大きな改善はみられず、1 日 1 時間以上身体を動かしている人も減少がみられます。運動だけでなく、仕事や家事も含めて活動的な生活をするための支援が必要です。市のオリジナル体操「TOON サーキットトレーニング」の普及啓発に力を入れるとともに、地区健康教室や高齢者を対象とした自主運動グループへの支援など、市民が自主的に継続して運動に取り組めるよう支援します。

### (3) 休養

#### 【これまでの取組】

休養は、疲労回復やストレス解消に大きな役割を果たします。適切な休養を日常生活に取り入れることは生活の質を高めるためには欠かせません。睡眠は休養の基本であり、睡眠不足は、生活習慣病の悪化やこころの病気につながるほか、適切な判断力を鈍らせ、不慮の事故につながる可能性もあります。

睡眠とこころと体の健康の関係について普及啓発をしました。

〇健康・食育カレンダーに睡眠関連記事を掲載しました。

〇睡眠と健康をテーマに、いきいき健康講座やこころの健康講座、衛生委員研修会を開催しました。

### 【目標指標の達成状況】

#### ① 睡眠の状態をよくないと感じている人の割合

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
32.3%	31.8%	△	減らす	A

### 【課題と今後の取組】

睡眠の状態をよくないと感じている人の割合は変化がみられません。休養の基本である質のよい睡眠がとれるよう、生活リズムや適切な睡眠時間や質の良い睡眠について普及啓発していきます。

## (4) 飲酒

### 【これまでの取組】

適度な飲酒は、ストレスの緩和やコミュニケーションを円滑にするなどの効用がありますが、多量の飲酒は、肝機能障害、糖尿病、高血圧など、多くの生活習慣病の原因にもなります。

また、妊娠中の飲酒は、生まれてくる赤ちゃんの心身の発達にも悪い影響を与えるほか、未成年で飲酒を始めると、アルコール依存症になりやすいことが知られています。

○健康・食育カレンダーに未成年の飲酒や適量飲酒について掲載しました。

○健康診査受診後に、健診結果に基づいて個別の相談を実施しました。

### 【目標指標の達成状況】

#### ① 1日当たりの男性2合以上、女性1合以上飲む人の割合（日本酒換算）

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
男性23.0% 女性15.1%	男性28.8% 女性13.0%	男性× 女性○	男性20% 女性12%	A

#### ② 毎日飲む人の割合

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
男性27.7% 女性6.2%	男性21.1% 女性6.0%	○	減らす	A

#### ③ アルコールを飲んだことがある子どもの割合

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
中学校1年生 男子23.1% 女子15.1%	中学校1年生 男子3.6% 女子5.9%	○	0%を目指す	L

#### ④ 妊娠中に飲酒する人の割合

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
0.4%	1.6%	※	0%を目指す	L

※指標設定のための調査方法が違うため評価できず

### 【課題と今後の取組】

適正量以上の飲酒をする男性は増加傾向でした。中学 1 年生の飲酒経験者は改善が見られました。

適正飲酒については広く情報提供をするとともに、健診結果に基づいて個別の相談を行います。未成年の飲酒の害について知識を普及するとともに、飲酒しないように家庭や地域で見守ります。また、妊婦や妊娠する可能性のある時期の飲酒の害について知識を普及し、飲酒している妊婦には個別の支援を行います。

### (5) 喫煙

#### 【これまでの取組】

喫煙は、がん、循環器疾患、糖尿病、COPD、周産期の異常などの原因となります。また、非喫煙者の受動喫煙も肺がんや虚血性心疾患などの様々な疾病の原因となるため、喫煙による健康被害を回避することが重要です。

○健康・食育カレンダーに喫煙や受動喫煙の害に関する記事を掲載しました。

○世界禁煙デー、禁煙週間に合わせてパネル展示による情報提供やチラシの配布を行いました。

#### 【目標指標の達成状況】

##### ① ほぼ毎日喫煙する人の割合

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
男性25.1% 女性6.5%	男性15.5% 女性4.5%	○	男性10.4% 女性2.8%	A

##### ② たばこを吸ったことがある子どもの割合

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
中学校1年生 男子4.2% 女子1.2%	中学校1年生 男子0.9% 女子1.3%	○	0%を目指す	B

##### ③ 妊娠中に喫煙する人の割合

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
2.9%	0.8%	※	0%を目指す	L

※指標設定のための調査方法が異なるため評価できず

##### ④ 受動喫煙を受けている人の割合

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
小学校4年生 9.3%	小学校4年生 5.7%	○	子どもは0%	B
中学校1年生 16.8%	中学校1年生 13.2%	○		
20~64歳 16.6%	20~64歳 20.5%	×	大人は半減	A

### 【課題と今後の取組】

大人の喫煙率、喫煙経験がある子どもの割合、受動喫煙を受けている子どもの割合は改善がみられています。一方、大人の受動喫煙を受ける割合は増加していました。

平成 30 年 7 月に健康増進法が改正され、受動喫煙対策が強化されることで、職場や飲食店での受動喫煙の機会は減少すると考えられます。引き続き、喫煙や受動喫煙の害について普及・啓発に取り組みます。また、妊娠中喫煙する人については個別の対応を進めます。

## (6) 歯・口腔の健康

### 【これまでの取組】

歯と口腔の健康は、口から食べる喜び、話す楽しみを保ち、身体的な健康だけでなく、精神的、あるいは社会的な健康にも寄与し、健康で質の高い生活を営む上で重要な要素となっています。

歯科と全身の健康をテーマに健康講座を実施しました。また、母子保健推進部会、老成人保健推進部会で歯科保健の課題や取組について整理、検討して、新たな取組を進めました。

○妊婦歯科健診の受診票にむし歯菌の感染に関する内容を掲載しました。

○歯周疾患検診の対象者に 20 歳、30 歳を追加しました。

○歯と身体の健康をテーマに衛生委員会、食生活改善推進員研修会、上林健康会議を開催しました。

○子ども医療費助成制度の改正により、歯科医療費の自己負担に対する助成を小学校 1 年生から中学校 3 年生まで拡大しました。

### 【目標指標の達成状況】

#### ① 過去 1 年間に歯科検診を受診した人の割合

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
男性44.2% 女性54.5%	男性57.6% 女性65.5%	○	65%	A

#### ② 3歳児でむし歯がない児の割合

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
70.0%	81.3%	◎	80%	N

#### ③ 12歳児の一人平均むし歯数

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
男子 0.88歯 女子 1.44歯	男子 0.29歯 女子 0.66歯	◎	男子 0.8歯 女子 1.0歯	M

④ 75～84 歳で 20 歯以上の自分の歯を有する人の割合

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
27.1%	—	※	50%	—

※指標設定のための調査方法が異なるため対象者数が十分でないため評価できず

⑤ 60～64 歳で 24 歯以上の自分の歯を有する人の割合

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
45.4%	66.7%	○	70%	A

⑥ 40 歳代で喪失歯のない人の割合

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
50.0%	43.5%	×	75%	A

⑦ 歯の状態が悪くよく噛めない人の割合（65 歳以上）

ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
7.5%	18.6%	※	減らす	A

**【課題と今後の取組】**

3 歳児と 12 歳児のむし歯の状況は目標値を達成したため、新しい目標値を設定します。大人の喪失歯の状況は、40 歳代では悪化していましたが、60～64 歳では改善がみられました。

12 歳児のむし歯の状況は全小学校でのフッ化物洗口の成果だと考えられますので、継続して取り組みます。引き続き、むし歯と歯周病の予防のために乳幼児期から歯みがきの習慣をつけ、かかりつけ歯科医で定期的な歯科健診を受けることを推進します。

## 第4章 目標指標の整理

### I 関連計画の改訂等により見直した項目

#### 1 東温市国民健康保険第3期特定健康診査等実施計画

計画策定時は、平成25～29年度を計画期間とした第2期計画に準じて設定したが、平成30年3月に第3期計画が策定されたため、目標値と目標達成年度を以下のとおりに設定しました。

生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底

##### (2) 循環器疾患

目標項目	目標
特定健康診査受診率	41%
特定保健指導実施率	64%
	(令和5年度)

#### 2 第3次東温市食育推進計画

計画策定時は、平成26～30年度を計画期間とした第2期計画に準じて設定したが、平成31年3月に第3期計画が策定されたため、目標項目、目標値、目標達成年度を以下のとおりに設定しました。

社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上

##### (2) こどもの健康

目標項目	目標
朝食を毎日食べる子どもの割合 (毎日必ず食べる)	100%を目指す (令和5年度)

栄養・食生活、身体活動・運動、休養、飲酒、喫煙及び歯・口腔の健康に関する生活習慣及び社会環境の改善

##### (1) 栄養・食生活

目標項目	目標
バランスのとれた食事をしている人の割合	男性70%以上 女性80%以上 (令和5年度)
目標項目	目標
緑黄色野菜を毎日食べる人の割合	男性 60%以上 女性 70%以上 (令和5年度)

目標項目	現状値	目標
共食の回数 (1週間のうち誰かと一緒に 食事をする回数)	小学生 12.9回 (朝食6.1回 夕食6.8回)	小学生 14回
	中学生 11.3回 (朝食4.9回 夕食6.4回) (平成29年度)	中学生 12回以上 (令和5年度)

### 3 東温市自殺対策計画

平成28年4月に策定された自殺対策基本法に基づいて、平成31年3月に東温市自殺対策計画が改正されたため、目標項目、目標値、目標達成年度を以下のとおりに設定しました。

社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上

#### (1) こころの健康

目標項目	現状値	目標
自殺死亡率 (人口10万人当たり)	17.0 (平成24年～28年)	14.5以下 (平成31年～令和5年)

### 4 健やか親子21

平成27年度から「健やか親子21(第2次)」が展開されており、東温市でも母子保健事業でアンケート調査を実施し、その調査結果が全国や県と比較できるような体制が整ったため、新たに目標指標と参考指標を追加しました。

社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上

#### (2) こどもの健康

目標指標

目標項目	現状値	目標
子どものかかりつけ医(内科)をもつ親の割合	3・4か月児 95.9% 3歳児 95.3% (平成29年度)	95%以上を維持 (令和6年度)
目標項目	現状値	目標
妊娠出産について満足している者の割合	75.3% (平成29年度)	85% (令和6年度)
目標項目	現状値	目標
この地域で子育てをしたいと思う親の割合	96.7% (平成29年度)	95%以上を維持 (令和6年度)

目標項目	現状値	目標
積極的に育児をしている父親の割合	3・4か月児 57.5% 1歳6か月児 55.1% 3歳児 51.4% (平成29年度)	70%  (令和6年度)

目標項目	現状値	目標
マタニティマークを妊娠中に使用したことのある母親の割合	37.1%  (平成29年度)	80%  (令和6年度)

目標項目	現状値	目標
育てにくさを感じたときに対処できる親の割合	3・4か月児 84.6% 1歳6か月児 81.0% 3歳児 89.2% (平成29年度)	95%  (令和6年度)

参考指標（目標値は定めませんが、数値の動向を取組の参考とします）

参考項目	現状値
産後1ヶ月でEPDS9点以上の褥婦の割合	18.2%  (平成29年度)

参考項目	現状値
乳幼児期に体罰や暴言、ネグレクト等によらない子育てをしている親の割合	3・4か月児 96.7% 1歳6か月児 80.3% 3歳児 55.3% (平成29年度)

栄養・食生活、身体活動・運動、休養、飲酒、喫煙及び歯・口腔の健康に関する生活習慣及び社会環境の改善

(6) 歯・口腔の健康

目標項目	現状値	目標
仕上げ磨きをする親の割合	1歳6か月児 75.0%  (平成29年度)	80%  (令和6年度)

目標項目	現状値	目標
子どものかかりつけ医（歯科）をもつ親の割合	3歳児 63.3%  (平成29年度)	70%  (令和6年度)



## 5 健康増進法の改正

平成30年に制定された健康増進法の改正において、原則屋内禁煙が定められ令和元年7月から学校・病院・児童福祉施設等、行政機関が原則敷地内禁煙、令和2年4月から事業所、ホテル、飲食店等が原則屋内禁煙になることに伴い、目標値を変更しました。

栄養・食生活、身体活動・運動、休養、飲酒、喫煙及び歯・口腔の健康に関する生活習慣及び社会環境の改善

### (5) 喫煙

目標項目	現状値	目標
受動喫煙を受けている人の割合	小学校4年生 5.7% 中学校1年生 13.2% 20～64歳 20.5% (平成29年度)	0%を目指す  (令和6年度)

## 6 市町村におけるがん検診受診率の算定方法に関する通知

平成28年に取りまとめられた「がん検診受診率等に関するワーキンググループ報告書」において、市町村間で比較可能ながん検診の受診率算定方法として「国民健康保険被保険者のうち、市町村事業におけるがん検診を受診した者の割合」が提案され、平成30年度地域保健・健康増進事業報告から、対象者を全住民、受診者を全受診者とする受診率と対象者を国民健康保険加入者、受診者を受診者のうち国保加入者とする受診率の2種類を報告しています。それに伴って、市町村比較ができる指標として以下の指標に変更しました。

生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底

### (1) がん

目標項目	現状値	目標
がん検診受診率 (全住民 69歳以下)	胃がん 男性9.9% 女性15.0%	胃がん 15%
	肺がん 男性7.3% 女性12.5%	肺がん 15%
	大腸がん 男性10.6% 女性19.0%	大腸がん 20%
	子宮頸がん 女性16.9%	子宮頸がん 20%
	乳がん 女性24.8%	乳がん 30%
	(平成30年度)	(令和6年度)

目標項目	現状値	目標
がん検診受診率 (国保加入者 69歳以下)	胃がん 男性21.8% 女性22.6%	胃がん 25%
	肺がん 男性15.8% 女性18.4%	肺がん 20%
	大腸がん 男性17.3% 女性19.3%	大腸がん 25%
	子宮頸がん 女性17.5%	子宮頸がん 20%
	乳がん 女性27.5%	乳がん 30%
	(平成30年度)	(令和6年度)

## Ⅱ 目標値を達成している項目

生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底

### (2) 循環器疾患

【目標】 血中脂質の改善 (LDL コレステロール 160 mg/dl 以上の人の割合)

ベースライン	現状値	中間評価	目標
男性8.5% 女性11.7% (平成23年度)	男性4.3% 女性8.1% (平成29年度)	◎	男性7.1% 女性8.8% (令和6年度)

中間評価時点で目標値を達成しているため、下記の通り新しい目標値を設定しました。

【新しい目標値】 男性3% 女性7%

社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上

### (1) こころの健康

【目標】 ストレスをよく感じる人の割合

ベースライン	現状値	中間評価	目標
20～64歳 27.8%	20～64歳 22.0%	◎	25%
中学1年生 22.3% (平成23、24年度)	中学1年生 17.3% (平成29年度)	◎	20% (令和6年度)

中間評価時点で目標値を達成しているが、今後も慎重な評価が必要な項目であるため、現状の目標を維持します。

栄養・食生活、身体活動・運動、休養、飲酒、喫煙及び歯・口腔の健康に関する生活習慣及び社会環境の改善

### (1) 栄養・食生活 (再掲)

【目標】 バランスのとれた食事をしている人の割合

ベースライン	現状値	中間評価	目標
男性 47.1%	男性 66.7%	◎	男性 60%
女性 73.4%	女性 68.4%	×	女性 80%
(平成23年度)	(平成29年度)		(平成30年度)

第3次東温市食育推進計画を策定時に目標値を達成していたため、下記の通り新しい目標値を設定しました。本計画の中間評価時の見直しも食育推進計画に準じて設定しなおしました。

【新しい目標値】 男性 70%以上

【目標】 緑黄色野菜を食べる人の割合

ベースライン	現状値	中間評価	目標
男性42.8%	男性55.8%	◎	男性 50%
女性56.2%	女性64.1%		女性 60%
(平成23年度)	(平成29年度)		(平成30年度)

第3次東温市食育推進計画を策定時に目標値を達成していたため、下記の通り新しい目標値を設定しました。本計画の中間評価時の見直しも食育推進計画に準じて設定しなおしました。

【新しい目標値】 男性 60%以上 女性 70%以上

(6) 歯・口腔の健康

【目標】 3歳児でむし歯のない児の割合

ベースライン	現状値	中間評価	目標
70.0%	81.3%	◎	80%
(平成24年)	(平成29年度)		(令和6年度)

中間評価時点で目標値を達成しているため、下記の通り新しい目標値を設定しました。

【新しい目標値】 90%

【目標】 12歳児の一人平均むし歯数

ベースライン	現状値	中間評価	目標
男子 0.88歯	男子 0.29歯	◎	男子 0.8歯
女子 1.44歯	女子 0.66歯		女子 1.0歯
(平成24年)	(平成29年度)		(令和6年度)

中間評価時点で目標値を達成しているため、下記の通り新しい目標値を設定しました。

【新しい目標値】 男子 0.2 歯 女子 0.6 歯

## 第5章 全体の評価と今後の課題・取組

評価困難となった指標を除いた目標指標 52 項目のうち、31 項目が改善されていました。5つの基本的な方向のうち、基本項目4「健康を支え、守るための社会環境の整備」では、目標指標の設定が計画策定後であったため中間評価に備えた指標設定が難しく、今回は評価に至りませんでした。また、評価が悪化している目標項目の中には低栄養傾向の高齢者の割合と中・壮年期の肥満者の割合の増加がみられ、やせと肥満の相反する課題がみられました。目標を達成している項目は7項目あり、そのうち5項目について新しい目標を設定し、取組を進めていきます。

健康増進計画では、生活習慣の改善や社会環境の整備等の基本的方向2～5の取組を推進することで最終目標の「健康寿命の延伸・健康格差の縮小」の達成を目指しています。

そのうち、重点的な取組として、「生活習慣病の発症予防・重症化予防の徹底」では、引き続きがん検診、健康診査の効果的な受診勧奨にナッジ理論等を活用して進めていきます。ICT等を活用して、健康診査及びがん検診の申し込みや受診がしやすい環境整備に引き続き取り組んでいきます。「循環器疾患」と「糖尿病」は発症予防・重症化予防とも「適切な食生活」、「適度な運動」などの生活習慣の改善と健診受診や必要な治療の継続が重要です。平成29年度から糖尿病性腎症の重症化予防に取り組んでいますが、今後、後期高齢者にも対象を広げて重症化予防に取り組みます。東温市の後期高齢者では慢性腎不全の者が他市町に比べて多く、糖尿病が原因でないケースも多くみられたため慢性腎不全の予防について検討していきます。また、がんに関する正しい知識の普及に努めていきます。

「こころの健康」では、平成31年3月に策定した東温市自殺対策計画に基づき取組を進めていきます。それに加えて、妊娠期からの切れ目ない関わりの一環として、エジンバラ産後うつ病自己質問票を使った支援に引き続き取り組みます。

「こどもの健康」では健康な生活習慣を身につける支援を基本に取組を進めていきます。それに加えて、令和2年4月に設置する子育て世代包括支援センターを中心に妊娠期から切れ目なく、母子保健と子育て支援のサービスを提供していきます。

「栄養・食生活」の取組は、生活習慣病の発症予防・重症化予防、高齢者の低栄養予防、こどもの健康にも関連が深いため、引き続きバランスのとれた食事を基本としたポピュレーションアプローチと個別のリスクに合わせたハイリスクアプローチの視点を持って取り組みます。

本計画策定後、国の健康寿命延伸の取組の一つとして「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施」の方針が示され、令和元年10月に「高齢者の特性を踏まえた保健事業ガイドライン（第2版）」が策定されました。その中で、高齢者の保健事業を後期高齢者医療広域連合から市が委託を受けて、介護の地域支援事業・国保の保健事業と一体的に実施することが求められています。後期高齢者の健康課題を把握・整理しながら、一体的な保健事業の展開を検討していきます。

# 参 考 资 料

## 東温市健康増進計画「健康とうおん～いきいきプラン～（第2次）」指標

【評価】◎目標を達成している ○改善傾向 △現状維持 ×悪化している ※評価困難

### 1 健康寿命の延伸と健康格差の縮小

#### ①生活の質の向上

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
自分で健康と感じている人の割合	87.1% (20～64歳) 60.0% (65歳以上) (平成23年)	84.0% 73.7% (平成29年)	△ ※	増やす (令和6年度)	A

※指標設定のための調査方法が違うため65歳以上は評価できず。

### 2 生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底

#### (1) がん

##### ①がんによる死亡の減少

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
全がんのSMR	男性 96.9 女性 84.8 (平成20～23年)	男性 97.4 女性 88.2 (平成20～平成24年)	※	減らす (令和6年度)	C

※算出根拠となる数値の設定年数が異なり、重複しているため評価できず。

##### ②がん検診の受診率・精密検査受診率の向上

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
がん検診受診率	胃がん 男性25.1% 女性29.4% 肺がん 男性27.1% 女性34.1% 大腸がん 男性33.6% 女性44.0% 子宮頸がん 女性53.7% 乳がん 女性 (平成23年度)	胃がん 男性24.3% 女性26.6% 肺がん 男性28.0% 女性32.0% 大腸がん 男性35.3% 女性43.7% 子宮頸がん 女性51.0% 乳がん 女性 (平成29年度)	△	胃、肺、大腸がん40%  子宮がん60% 乳がん65% (令和6年度)	D

##### ②がん検診の精密検査受診率の向上

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
がん精密検査の受診率	胃がん 93.4% 肺がん (対象なし) 大腸がん 79.7% 子宮頸がん 96.2% 乳がん 93.0% (平成23年度)	胃がん 89.0% 肺がん 91.3% 大腸がん 78.0% 子宮頸がん 100% 乳がん 95.7% (平成29年度)	△	100%を目指す (令和6年度)	D

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
がん検診受診率（全住民 69歳以下）		胃がん 男性9.9% 女性15.0% 肺がん 男性7.3% 女性12.5% 大腸がん 男性10.6% 女性19.0% 子宮頸がん 女性16.9% 乳がん 女性24.8% (平成30年度)		胃がん 15% 肺がん 15% 大腸がん 20% 子宮頸がん 20% 乳がん 30% (令和6年度)	D
がん検診受診率（国保加入者 69歳以下）		胃がん 男性21.8% 女性22.6% 肺がん 男性15.8% 女性18.4% 大腸がん 男性17.3% 女性19.3% 子宮頸がん 女性17.5% 乳がん 女性27.5% (平成30年度)		胃がん 25% 肺がん 20% 大腸がん 25% 子宮頸がん 20% 乳がん 30% (令和6年度)	D

☆がん検診受診率の算定方法に関する通知により指標の算出方法を変更した。

## (2) 循環器疾患

### ①循環器疾患による死亡の減少

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
脳血管疾患・虚血性心疾患のSMR	脳血管疾患 男性101.3 女性92.0 虚血性心疾患 男性39.2 女性59.9 (平成20～23年)	脳血管疾患 男性99.6 女性87.9 虚血性心疾患 男性53.5 女性85.1 (平成20～平成24年)	※	減らす (令和6年度)	C

※算出根拠となる数値の設定年数が異なり、重複しているため評価できず。

### ②高血圧の改善

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
収縮期血圧の平均値	男性 127.8mmHg 女性 124.1mmHg (平成23年度)	男性 125.0mmHg 女性 121.1mmHg (平成29年度)	○ ○	男性 123.8mmHg 女性 120.1mmHg (令和6年度)	E

### ③血中脂質の改善

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
LDLコレステロール 160mg/d l以上の者の割合	男性 8.5% 女性11.7% (平成23年度)	男性 4.3% 女性8.1% (平成29年度)	◎	男性7.1% 女性8.8% (令和6年度)	E

☆目標値を達成したため更なる向上を目指し、目標値を再設定した。

目標項目	目標	出典
LDLコレステロール160mg/d l以上の者の割合	男性3% 女性7% (令和6年度)	E

### ④特定健康診査・特定保健指導の実施率の向上

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
特定健康診査受診率	特定健診受診率 30.9%	35.1%	○	35%	F
特定保健指導実施率	保健指導実施率 54.5% (平成23年度)	52.1% (平成29年度)	△	65% (平成29年度)	

☆東温市国民健康保険第3期特定健康診査等実施計画に準じて目標値と目標達成年度を設定した。

目標項目	目標	出典
特定健康診査受診率	41%	F
特定保健指導実施率	64% (令和5年度)	

## (3) 糖尿病

### ①血糖コントロール不良者の割合の減少

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
HbA1cがJDS値8.0% (NGSP値8.4%) 以上の者の割合	0.73% (平成23年度)	0.75% (平成29年度)	△	0.62% (令和6年度)	E

### ②糖尿病有病者の増加の抑制

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
HbA1cがJDS値6.1% (NGSP値6.5%) 以上かつ血糖服薬ありの者の割合	3.8% (平成23年度)	4.0% (平成29年度)	△	増加を抑制 (令和6年度)	E

## (4) COPD (慢性閉塞性肺疾患)

### ①COPDの認知度の向上

目標項目	現状	現状値	中間評価	目標	出典
COPDを知っている人の割合	29.9% (平成25年)	34.6% (平成29年度)	○	80% (令和6年度)	A

### 3 社会生活を営むために必要な機能の維持・向上

#### (1) こころの健康

##### ①自殺者の減少

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
自殺のSMR	男性 121.19 女性 146.52 (平成20～23年)	男性 109.3 女性 116.6 (平成20～平成24年)	○	減らす (令和6年度)	C

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
自殺死亡率(人口10万人当たり)		17.0 (平成24年～28年)		14.5以下 (平成31年～令和5年)	G

☆東温市自殺対策計画に準じて、目標指標と目標値、目標達成年度を設定した。

##### ②ストレスをよく感じる人の減少

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
ストレスを感じることがよくある人の割合	20～64歳 27.8%	20～64歳 22.0%	◎	25%	A
	中学1年生 22.3% (平成23、24年度)	中学1年生 17.3% (平成29年度)	◎	20% (令和6年度)	B

##### ③ストレスを解消できる人の増加

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
ストレスを解消する手段(方法)を持っている人の割合	77.9% (平成23年度)	78.9% (平成29年度)	△	増やす (令和6年度)	A

##### ④困った時に相談できる人の増加

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
身近に相談できる人がいる割合	20～64歳 男性83.8% 女性95.4%	20～64歳 男性85.7% 女性90.9%	△	100%を目指す	A
	中学1年生 男子81.1% 女子89.2% (平成23年度)	中学1年生 男子83.8% 女子87.6% (平成29年度)	△		B (令和6年度)

#### (2) こどもの健康

##### ①健康な生活習慣(栄養・食生活、運動)を有する子どもの増加

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
ア 朝食を毎日食べる子どもの割合 (毎日必ず食べる)	小学校5年生 82.2% 中学校2年生 83.5% (平成23年度)	小学校5年生 83.0% 中学校2年生 86.1% (平成29年度)	○	100%を目指す (平成30年度)	B

☆第3次東温市食育推進計画に準じて目標値と目標達成年度を設定した。

目標項目	目標	出典
朝食を毎日食べる子どもの割合 (毎日必ず食べる)	100%を目指す (令和5年度)	F

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
イ 外で体を動かして遊んでいる子どもの割合 (スポーツ少年団活動も含む)	小学生4年生 男子65.5% 女子39.0% (平成24年度)	小学生4年生 男子62.2% 女子52.0% (平成29年度)	○	増やす (令和6年度)	B

##### ②適正体重の子どもの増加

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
ア 全出生数中の低出生体重児の割合	7.8% (平成23年)	9.0% (平成29年度)	×	減らす (令和6年度)	H

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
イ 肥満傾向にある子どもの割合の減少 (小学校4年生、中学校1年生の中等度・高度肥満傾向児の割合)	小学校4年生 男子3.1% 女子4.5% 中学校1年生 男子4.0% 女子5.8% (平成24年度)	小学校4年生 男子9.0% 女子6.6% 中学校1年生 男子6.0% 女子7.4% (平成29年度)	×	減らす (令和6年度)	I



③子どものかかりつけ医をもつ（新規）

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	
子どものかかりつけ医（内科）をもつ親の割合		3・4か月児 95.9% 3歳児 95.3% (平成29年度)		95%以上を維持 (令和6年度)	L

☆健やか親子21のアンケートを活用して新たな指標を設定した。

④妊娠出産について満足している者を増やす（新規）

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	
妊娠出産について満足している者の割合		75.3% (平成29年度)		85% (令和6年度)	L

☆健やか親子21のアンケートを活用して新たな指標を設定した。

⑤この地域で子育てをしたいと思う親を増やす（新規）

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	
この地域で子育てをしたいと思う親の割合		96.7% (平成29年度)		95%以上を維持 (令和6年度)	L

☆健やか親子21のアンケートを活用して新たな指標を設定した。

⑥積極的に育児をしている父親を増やす（新規）

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	
積極的に育児をしている父親の割合		3・4か月児 57.5% 1歳6か月児 55.1% 3歳児 51.4% (平成29年度)		70% (令和6年度)	L

☆健やか親子21のアンケートを活用して新たな指標を設定した。

⑦マタニティマークを妊娠中に使用したことのある母親を増やす（新規）

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	
マタニティマークを妊娠中に使用したことのある母親の割合		37.1% (平成29年度)		80% (令和6年度)	L

☆健やか親子21のアンケートを活用して新たな指標を設定した。

⑧育てにくさを感じた時には相談する（新規）

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	
育てにくさを感じたときに対処できる親の割合		3・4か月児 84.6% 1歳6か月児 81.0% 3歳児 89.2% (平成29年度)		95% (令和6年度)	L

☆健やか親子21のアンケートを活用して新たな指標を設定した。

⑨参考指標（新規）

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	
ア 産後1ヶ月でEPDS9点以上の褥婦の割合		18.2% (平成29年度)			L

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	
イ 乳幼児期に体罰や暴言、ネグレクト等によらない子育てをしている親の割合		3・4か月児 96.7% 1歳6か月児 80.3% 3歳児 55.3% (平成29年度)			L

※この数か月に①～⑦の選択肢のいずれにも該当しないと回答した者の割合

- ①しつけのし過ぎがあった ②感情的にたたいた ③乳幼児だけを家に残して外出した ④長時間食事を与えなかった  
⑤感情的な言葉で怒鳴った ⑥子どもの口をふさいだ ⑦子どもを激しく揺さぶった

☆健やか親子21のアンケートを活用して新たな指標を設定した。目標値は定めないが数値の動向を取組の参考とする。

(3) 高齢者の健康

①介護保険サービス利用者の増加の抑制

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
要介護認定者数（1号被保険者）	21.5% (平成24年)	20.9% (平成29年)	○	増加を抑制 (令和6年度)	J

65歳以上で介護保険利用を認定された人の割合

②ロコモティブシンドローム（運動器症候群）を認知している市民の割合の増加

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
ロコモティブシンドロームを知っている人の割合	22.5% (平成25年度)	27.9% (平成29年度)	○	80% (令和6年度)	A

③低栄養傾向（BMI20以下）の高齢者の割合の増加抑制

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
低栄養傾向（BMI20以下）の高齢者の割合	男性13.7% 女性21.7% (平成24年度)	男性13.1% 女性24.5% (平成29年度)	×	増加を抑制 (令和6年度)	E

④高齢者の社会参加の促進

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
何らかの地域活動に参加している高齢者の割合	男性71.5% 女性69.7% (平成23年)	男性67.5% 女性64.8% (平成29年度)	※	80% (令和6年度)	A

※指標設定のための調査方法が異なるため評価できず。

#### 4 健康を支え、守るための社会環境の整備

①地域とのつながりの強化

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
(計画策定後調査) 地域でお互いに助け合っていると思う人の割合	(参考値) 58.8% (平成26年度)	63.4% (平成29年度)	※	増やす (令和6年度)	A

※指標設定のための調査方法が異なるため評価できず。

②健康づくりを目的とした活動に主体的に関わっている人の割合の増加

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
(計画策定後調査) 健康づくりを目的とした活動に主体的に関わっている人の割合	(参考値) 19.6% (平成26年度)	8.6% (平成29年度)	※	増やす (令和6年度)	A

※指標設定のための調査方法が異なるため評価できず。

#### 5 栄養・食生活、身体活動・運動、休養、飲酒、喫煙及び歯・口腔の健康に関する生活習慣及び社会環境の改善

(1) 栄養・食生活

①適正体重を維持している者の増加

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
適正体重を維持している人の割合 (肥満（BMI25以上）、やせ（BMI18.5未満）の減少)	30歳～60歳代の男性の肥満者の割合 27.8%	30歳～60歳代の男性の肥満者の割合 33.3%	×	25%	E
	40歳～60歳代の女性の肥満者の割合 18.6%	40歳～60歳代の女性の肥満者の割合 20.3%	×	15%	
	30歳代女性のやせの者の割合 22.0% (平成24年度)	30歳代女性のやせの者の割合 20.8% (平成29年度)	○	20% (令和6年度)	

②適切な量と質の食事をとる者の増加

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
ア バランスのとれた食事をしている人の割合	男性 47.1% 女性 73.4% (平成23年度)	男性65.8% 女性68.3% (平成29年度)	◎ ×	男性 60% 女性 80% (平成30年度)	A

☆第3次東温市食育推進計画に準じて目標値と目標達成年度を設定した。

目標項目	目標	出典
バランスのとれた食事をしている人の割合	男性70%以上 女性80%以上 (令和5年度)	A

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
イ 減塩を心がけている人の割合	男性51.3% 女性70.2%	男性57.6% 女性72.1%	○	70%	A

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
ウ 緑黄色野菜を毎日食べる人の割合	男性42.8% 女性56.2% (平成23年度)	男性 54.9% 女性 64.2% (平成29年度)	◎	男性 50% 女性 60% (平成30年度)	A

☆第3次東温市食育推進計画に準じて目標値と目標達成年度を設定した。

目標項目	目標	出典
緑黄色野菜を毎日食べる人の割合	男性 60%以上 女性 70%以上 (令和5年度)	F

### ③適切な食品を選ぶ者の増加

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
外食や食品を購入する時に食品重量や栄養成分を参考にする人の割合	男性20.9% 女性37.0% (平成23年度)	男性24.9% 女性39.5% (平成29年度)	○	40% (令和6年度)	A

### ④共食の機会の増加

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
食事を家族と食べる子どもの割合	朝食 小学生4年生 96.5% 中学校1年生 79.6% 夕食 小学生4年生 98.6% 中学校1年生 95.1% (平成24年度)	朝食 小学生4年生 94.7% 中学校1年生 81.6% 夕食 小学生4年生 99.6% 中学校1年生 96.0% (平成29年度)	△  ○	100%を目指す (平成30年度)	B

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
共食の回数 (1週間のうち誰かと一緒に食事をする回数)		小学生 12.9回 (朝食6.1回 夕食6.8回) 中学生 11.3回 (朝食4.9回 夕食6.4回) (平成29年度)		小学生 14回 中学生 12回以上 (令和5年度)	B

☆第3次東温市食育推進計画に準じて、目標項目、目標値、目標達成年度を設定した。

## (2) 運動・身体活動

### ①日常生活を活動的に過ごす者の増加

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
ア 歩行または同等の身体活動を1日1時間以上実施している者の割合（仕事を含む）	40～64歳 男性62.4% 女性64.6% (平成24年度)	40～64歳 男性66.8% 女性60.1% (平成29年度)	△	40～64歳 男性73% 女性75% (令和6年度)	K

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
イ 散歩や軽い体操を定期的に行っている者の割合	65歳以上 男性55.5% 女性55.1% (平成23年度)	65歳以上 男性50.0% 女性68.3% (平成29年度)	※	65歳以上 男性65% 女性65% (令和6年度)	A

※指標設定のための調査方法が異なるため65歳以上は評価できず。

### ②運動習慣者の割合の増加

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
1日30分以上の軽く汗をかく運動を週2日以上、1年以上継続している者の割合	40～64歳 男性34.4% 女性35.0% 65歳以上 男性58.9% 女性48.2% (平成24年度)	40～64歳 男性41.9% 女性34.5% 65歳以上 男性58.1% 女性52.0% (平成29年度)	○  ○	40～64歳 男性44% 女性45% 65歳以上 男性69% 女性58% (令和6年度)	K

## (3) 休養

### ①よい睡眠がとれている人の割合の増加

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
睡眠の状態をよくないと感じている人の割合	32.3% (平成23年度)	31.8% (平成29年度)	△	減らす (令和6年度)	A

(4) 飲酒

①適正な量と頻度で飲酒する人の割合の増加

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
ア 1日当たりの男性2合以上、女性1合以上飲む者の割合（日本酒換算）	男性23.0% 女性15.1% (平成23年度)	男性28.8% 女性13.0% (平成29年度)	男性× 女性○	男性20% 女性12% (令和6年度)	A

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
イ 毎日飲む人の割合	男性27.7% 女性6.2% (平成23年度)	男性21.1% 女性6.0% (平成29年度)	○	減らす (令和6年度)	A

②未成年の飲酒をなくす

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
アルコールを飲んだことがある者の割合	中学校1年生 男子23.1% 女子15.1% (平成24年度)	中学校1年生 男子3.6% 女子5.9% (平成29年度)	○	0%を目指す (令和6年度)	B

③妊娠中の飲酒をなくす

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
妊娠中に飲酒する妊婦の割合	0.4% (平成23年度)	1.6% (平成29年度)	※	0%を目指す (令和6年度)	L

※指標設定のための調査方法が異なるため評価できず。

(5) 喫煙

①成人の喫煙率の減少

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
ほぼ毎日吸う人の割合	男性25.1% 女性6.5% (平成23年度)	男性15.5% 女性4.5% (平成29年度)	○	男性10.4% 女性2.8% (令和6年度)	A

②未成年の喫煙をなくす

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
たばこを吸ったことがある者の割合	中学校1年生 男子4.2% 女子1.2% (平成24年度)	中学校1年生 男子0.9% 女子1.3% (平成29年度)	○	0%を目指す (令和6年度)	B

③妊娠中の喫煙をなくす

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
妊娠中に喫煙する妊婦の割合	2.9% (平成23年度)	0.8% (平成29年度)	※	0%を目指す (令和6年度)	L

※指標設定のための調査方法が異なるため評価できず。

④受動喫煙をなくす

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
受動喫煙を受けている人の割合	小学校4年生 9.3%	小学校4年生 5.7%	○	子どもは0%	B
	中学校1年生 16.8% 20～64歳 16.6% (平成23、24年度)	中学校1年生 13.2% 20～64歳 20.5% (平成29年度)	○ ×		

☆健康増進法の改正によって、令和2年4月から原則屋内禁煙になることに伴い、目標値を変更した。

目標項目	目標	出典
受動喫煙を受けている人の割合	0%を目指す (令和6年度)	A

(6) 歯・口腔の健康

①口腔機能の維持・向上

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
歯の状態が悪くよく噛めない人の割合 (65歳以上)	7.5% (平成23年度)	18.6% (平成29年度)	※	減らす (令和6年度)	A

※指標設定のための調査方法が異なるため65歳以上は評価できず。

②歯の喪失予防

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
ア 75～84歳で20歯以上の自分の歯を有する者の割合の増加	27.1% (平成23年度)	— (平成29年度)	※	50% (令和6年度)	—

※指標設定のための調査方法が違うため65歳以上は評価できず。

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
イ 60～64歳で24歯以上の自分の歯を有する者の割合の増加	45.4% (平成23年度)	66.7% (平成29年度)	○	70% (令和6年度)	A

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
ウ 40歳代で喪失歯のない者の割合の増加	50.0% (平成23年度)	43.5% (平成29年度)	×	75% (令和6年度)	A

③乳幼児・学齢期のう蝕のない者の増加

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
ア 3歳児でう蝕がない者の割合	70.0% (平成24年度)	81.3% (平成29年度)	◎	80% (令和6年度)	N

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
イ 12歳児の一人平均う蝕数	男子 0.88歯 女子 1.44歯 (平成24年度)	男子 0.29歯 女子 0.66歯 (平成29年度)	◎	男子 0.8歯 女子 1.0歯 (令和6年度)	M

☆目標値を達成したため更なる向上を目指し、目標値を再設定した。

目標項目	目標	出典
ア 3歳児でう蝕がない者の割合	90%	N
イ 12歳児の一人平均う蝕数	男子 0.2歯 女子 0.6歯 (令和6年度)	M

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
ウ 仕上げ磨きをする親の割合 (新規)		1歳6か月児 75.0% (平成29年度)		80% (令和6年度)	L

☆健やか親子21のアンケートを活用して新たな指標を設定した。

④子どものかかりつけ医をもつ (新規)

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
子どものかかりつけ医 (歯科) をもつ親の割合		3歳児 63.3% (平成29年度)		70% (令和6年度)	L

☆健やか親子21のアンケートを活用して新たな指標を設定した。

⑤歯科健診の受診

目標項目	ベースライン	現状値	中間評価	目標	出典
過去1年間に歯科検診を受診した者の割合の増加	男性44.2% 女性54.5% (平成23年度)	男性57.6% 女性65.5% (平成29年度)	○	65% (令和6年度)	A

目標指標出典一覧

記号	出典調査等
A	平成 29 年度 食育と健康づくりに関するアンケート
B	平成 29 年度 食育と生活習慣に関するアンケート
C	保健医療科学院
D	平成 29 年度 東温市がん検診受診率 (地域保健・健康増進事業報告)
E	平成 29 年度 各種健康診査結果等集計
F	平成 29 年度 特定健康診査等受診率 (法定報告)
G	自殺総合対策推進センター「地域自殺対策プロファイル(2017)」
H	厚生労働省「人口動態統計」
I	平成 29 年度 東温市小児生活習慣病予防健診結果集計
J	平成 24 年度 東温市介護保険実績
K	平成 29 年度 東温市各種健康診査集計
L	平成 29 年度 すこやか親子 21 アンケート
M	平成 29 年度 定期健康診断結果集計 (小、中学校)
N	平成 29 年度 東温市母子保健事業実績

東温市健康増進計画 健康とうおん～いきいきプラン～（第2次）

## 中間評価報告書

令和2年3月発行

東温市 市民福祉部 健康推進課

〒791-0292 愛媛県東温市見奈良530番地1